

大問 1. 出題意図

本文章は、海外での挫折や困難を通して学びを得ていく過程と、友情による支えを描いたエッセイである。受験生には、筆者の体験から読み取れる価値観や教訓を的確に理解する読解力を求める。また、それらを自らの経験や考えと関連づけて表現する力、すなわち論理的思考力・自己表現力・共感力を総合的に評価する。

〔問 1〕 出題意図

筆者たちが初めてパリを訪れた際に経験した困難の原因について、本文の内容に即して的確に把握する読解力を評価する問題である。特に、語学力・知識・自信の不足といった内的要因と、それに伴う周囲の対応や心理的影響との関係を整理し、因果関係を明確に説明する力を測る。

〔問 2〕 出題意図

地下鉄の場面において、筆者の友人の発言は、不安な状況を乗り越えようとする姿勢を示している。この言葉に込められた感情や意図を読み取り、困難に直面したときの人間の心理的变化や、友情による支えの意味を理解する力を評価する。

〔問 3〕 出題意図

筆者の体験を通して示される「困難や失敗も成長や学びにつながる」というメッセージを的確に読み取り、それを自分自身の経験や考えと関連づけて論述する力を評価する。評価は次の観点に基づいて行う。

- ・本文から読み取れるメッセージを的確に要約していること
- ・そのメッセージに対する自分の考えが明確に示されていること
- ・自分の考えを支える根拠が具体的で、説得力をもって展開されていること
- ・全体の文章が論理的で一貫性を保っていること

大問 2. 出題意図

〔問 1〕「優位集団」はマジョリティ、「劣位集団」はマイノリティに該当する。本文を把握して語彙を正しく理解しているかを確認し、基礎的な読解力をみる。

〔問 2〕「無標」と「有標」という概念を、本文の事例に頼らず一般的な言葉で説明させている。抽象的概念を理解し、一般化したうえで簡潔に説明することができるかを評価する。

〔問 3〕優位集団（マジョリティ）が特権に無自覚であることの問題と、変化の必要性を論じた本文を踏まえ、優位集団が特権を認識するための具体的な取組を提案させる問題である。本文の論点を的確に読み取り、課題を整理する読解力に加え、解決に向けた具体的な方策を考案する考察力、さらに課題と方策の論理的なつながりや説得力、簡潔かつ明確な表現力を総合的に評価する。